科目番号	68	科目名	古典文学講読Ⅱ

英文科目名	
大学・短期大学名	滋賀文教短期　　大学
連絡先	滋賀文教短期大学　学務課　教務係 TEL ： 0749-63-5815　　FAX ： 0749-65-1921
担当教員	池田　大輔　（　国文学科　　准教授　）
実施方法	(対面授業)　遠隔授業　　対面・遠隔併用
教室名	本館2階 204教室　会場　滋賀文教短期大学
授業期間	2023 年 9 月 15 日（金）～ 2023 年 12 月 22 日（金） ＜毎週 金 曜日＞ 2 時限・講時 10 ： 45 ～ 12 ： 15
超過時の選考方法	書類選考
成績評価方法	定期試験（筆記）　　%
	レポート試験（期末）　55　%
	平常点（出席・授業態度）　　%
	その他授業での取り組み　45　%
別途負担費用	(なし)　あり（　　）円
その他特記事項	**＜授業形態＞** 新型感染症の拡大状況により、対面授業が遠隔授業に切り替わる可能性があります。 **＜欠席連絡＞** 欠席連絡については、滋賀文教短期大学 学務課教務係(0749-63-5815)までご連絡ください。 **＜その他＞** ・遠隔講義の場合は、「Google Meet」を使用したリアルタイム型となります。 ・「古語辞書」（電子辞書も可）を用意すること。 ・「授業での取り組み」では、Google Classroom内「リアクションペーパー」各3点×15回＝45点として評価します。 ・定期試験採点後、希望者には答案用紙の返却を行います。 ・オフィスアワー：木、13:00～15:00 ・各回の授業テーマは、シラバス内授業計画表の鍵括弧（「　」）内のものとなります。

＜講義概要・到達目標＞

【講義概要】

江戸時代後期に十遍舎一九が作・画を手がけた『的中地本問屋』（あたりやしたじほんどいや）を扱います。この作品を通して、江戸時代の出版事情、文化、文字、表現、笑いについて講義します。

出版当時の本文を印刷したもの（影印）を使用して、変体仮名の解読、それをもとに古語辞書等を用いて、本文解釈を行い、丁寧に内容を「読む」ことを重視します。

また、授業形式は、「コメントペーパー」をもとに、受講者同士の考えや意見を共有しディスカッションを行うPBL（課題解決型学習）です。

【到達目標】

1. 適切な古語辞書等を用いて本文を解釈し、内容を理解し、自らの考えを意見することができる。
2. 江戸時代の出版事情や出版方法の知識を習得し、説明することができる。
3. 近世の資料に用いられる変体仮名と漢字の一部が解読できる。
4. 他者の考えを踏まえ、自分の考えを踏まえ、デスカッションの展開ができる。

＜授業スケジュール＞

回	月日	テーマ・キーワード
1	9 月 15 日	ガイダンス&『的中地本問屋』の解説（1丁表）「江戸時代の暦法について」
2	9 月 22 日	『的中地本問屋』（1丁裏・2丁表）「戯作者と板元について〈前半〉」
3	9 月 29 日	『的中地本問屋』（1丁裏・2丁表）「戯作者と板元について〈後半〉」
4	10 月 6 日	『的中地本問屋』（2丁裏・3丁表）「彫師について〈前半〉」
5	10 月 13 日	『的中地本問屋』（2丁裏・3丁表）「彫師について〈後半〉」
6	10 月 20 日	『的中地本問屋』（3丁裏・4丁表）「摺師について〈前半〉」
7	10 月 27 日	『的中地本問屋』（3丁裏・4丁表）「摺師について〈後半〉」
8	11 月 3 日	『的中地本問屋』（4丁裏・5丁表）「丁合について〈前半〉」
9	11 月 10 日	『的中地本問屋』（4丁裏・5丁表）「丁合について〈後半〉」
10	11 月 17 日	『的中地本問屋』（5丁裏・6丁表）「切りについて〈前半〉」
11	11 月 24 日	『的中地本問屋』（5丁裏・6丁表）「切りについて〈後半〉」
12	12 月 1 日	『的中地本問屋』（6丁裏・7丁表）「表紙掛けについて〈前半〉」
13	12 月 8 日	『的中地本問屋』（6丁裏・7丁表）「表紙掛けについて〈後半〉」
14	12 月 15 日	『的中地本問屋』（7丁裏・8丁表）「綴じについて〈前半〉」
15	12 月 22 日	『的中地本問屋』（7丁裏・8丁表）「綴じについて〈後半〉」

＜教科書・参考書＞

＜教科書＞
・講義資料は、資料はA3サイズです（最初の講義時に配布します）。

＜参考書＞
・『江戸の出版事情』内田啓一、青幻舎、2007年、1,800円（本体）
・『江戸の卵は1個400円！』丸太勲、光文社新書、2011年、740円（本体）